

東松島復興推進員だより(第2号)

～地を往きて走らず～

8月に導入研修を終えた復興推進員（国際協力推進員）は、9月から本格的な活動に入りました。

東松島市内は8つの行政区に分かれています。各地区で開催される、復興まちづくり計画に関する住民地区懇談会にファシリテーターとして参加し、復興まちづくりへの市民の声を反映した復興計画づくりを支援しています。

地区懇談会では、震災時から避難生活までに感じた課題や問題点とともに、復興まちづくり計画に対する意見・提案等の取りまとめを行っています。取りまとめた結果は、東松島市が策定する復興計画に反映されていく予定となっています。

9月5日の赤井地区では、初めてのファシリテーションで戸惑いもありましたが、市民の皆さんからお話を伺いながら、出された意見を整理し発表しました。赤井地区では、津波被害が大きかった地区では「定川の堤防整備」、「農地の買い上げや大規模化」を望む意見が出されました。一方で津波被害が無かった地区では、震災当初から避難所で住民による支援活動を行うなど、地区による違いが明らかになりました。また、中学生を対象にしたワークショップでは、当初は明るい街の姿をイメージした意見が少なかったものの、議論を経て「高齢者も住みやすいまち」、「観光客がたくさん訪れるまち」、「毎月、楽しいイベントのあるまち」など、大人たちとは違った視点で、将来のまちのあり方などについて具体的な意見が出されました。

以降、矢本西地区、大曲地区、野蒜地区と機会を重ねるごとに、東松島市の被災者や住民たちが抱えている問題は、きわめて多様で複雑であることが見えてきました。各地区によって、コミュニティのあり方、地元リーダーの有無など違いはありますが、みなさん、東松島市への愛着と早期の復興にかける強い思いをお持ちです。この復興への思いが早く形になるように推進員は活動をしていきます。



イベント支援



中学校ワークショップ

また、大曲地区に設置されている仮設住宅（計393戸）は、他の仮設住宅に先駆けて、自治会組織が形成されています。住民自治組織が運営する市民センターが中心に“お茶っこ飲み会”を毎週1回開催し、住民の皆さんが触れ合える場、知り合える場を作っています。このお茶っこ飲み会に参加しコミュニティ形成のノウハウ、地域リーダーのあり方などを学びながら、他の地区での活動に活かしていきます。

現在、推進員は宮戸市民センター、野蒜市民センター等を活動の中心において、市民や行政との関係づくりに励んでいます。市民協働まちづくりの中心拠点である市民センターを再生しつつ、地域の状況、コミュニティの現状を丁寧に把握しながら、まちづくり推進主体となる地域住民との信頼関係を構築し、復興まちづくりの体制造りに取り組んでいます。



地区懇談会ファシリテーション



地区懇談会ファシリテーション

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。

【東松島市ホームページ 地区懇だより】

<http://www.city.higashimatsushima.miyagi.jp/kakuka/fukkou/fukkou/ivoho.html>
